

「私たちは、信じる」

(エペソ2:8)

一、さかのぼればニカイア信条

五、六年前より、口癖のように語っている言葉があります。それは「勝手に信じたらダメですよ」です。私たちは神を、それまでに信じられてきたように信じる必要があるという意味です。それは私たちが縛ってしまうのではありませぬ。むしろ反対です。例えば、ゴムひもを長く伸ばすためには、片方を固定する必要があります。そうしないと、ゴムひもごと動いてしまいます。ですが、一端を固定するならば、かなり伸びます。弾力的になります。この、ゴムひもの一端を固定するのが、信仰告白の言葉であり、皆さまがご存じの「使徒信条」です。さらに、キリスト教会の源流をさかのぼるなら「ニカイア信条(ニケア信条)」にたどり着きます。

ちなみに、ニカイア信条は使徒信条に似ていますが、使徒信条とは成り立ちが異なるようです。使徒信条は西ローマ教会の流れにあります。その前身は「古ローマ信条」と言われています。

二、なぜニカイア信条が……

ご存じのように、コンスタンティヌス帝は313年にミラノ勅令という、キリスト教を公認する勅令を發布しました。

そうしますと、それまでの多種多様なキリスト教徒や異教徒からキリスト教に改宗した人々が、ローマ帝国が公認するキリスト教会の傘下に入って来ました。当然混乱が起こり、ローマ皇帝が放っておけない状況になりました。そこで、キリスト教の信仰の基本を定めるため、325年コンスタンティヌス帝がニカイアに司祭たちを召集し、「原ニカイア信条」が採択されました。当時、アフリカのアレクサンドリアで司祭をしていたアレリオス(アリウス)が、キリストが父から生まれたとするなら、御子キリストが存在しなかったときがあったはずである、キリストは創造主の前にやや劣る存在であるという教えを展開し、アタナシオス派(ニカイア派)と激しく対立しました。公会議の結果、アレリオス(アリウス)が斥けられて「ニカイア信条」が採択されました。ですが、「ニカイア信条」は信条の体裁にはならないものでした。御子が存在しなかつた時があったとか、御子は生まれる前には存在しなかつたとか、(略)神の御子は変化し異質になり得る者であると主張する者を、公同かつ使徒的な教会は呪うものである。という言葉をもって閉じられているからです。ですが、キリスト教会の信仰は「ニカイア信条」をもって定まったと言えます。くり返し申しますが、信条というものは私たちの信仰を縛るものではありません。

信仰を確認させるものです。

さて、それから56年後の381年に再びコンスタンティノープル(現在のイスタンブール)に司祭たちが召集され、「ニカイア・コンスタンティノポリス信条」が採択されました。アレリオス派(アリウス派)が再び力を握って、一筋縄では収まらなかつたからです。皇帝が望んだのは国家の安定でした。

三、「私たちは、信じる」

ニカイア信条は二つありますので、381年の「ニカイア・コンスタンティノポリス信条」を「ニカイア信条」と呼び、325年の「ニカイア信条」を「原ニカイア信条」と呼ぶことにいたします。

ニカイア信条のはじめに、**「私たちは、ただひとりの神、すべてを支配される父、天と地と見えるものと見えないものすべての造り主を信じます。」**とあります。日本語ですと「信じます」が最後に来ますが、原文では最初に来ます。ですから、「ニカイア信条は「信じる」ということの告白であり、その内容であると言えます。考えてみれば、私人間に万物の創造者なる神は分かりません。ですから、「信じる」という言葉が最初に出てきて当然です。神を信じるとは「これこれこうだから信じる」ではなく、信じるのが先です。神を信じない人たちも、「キリスト教が信じるような人格的な神はいない」と「信じている」に

過ぎません。私たちには神は分からないのです。神を認めるにしても認めないにしても、どちらも「信じている」に過ぎません。そこで、こういうことが言えると思います。もし信じることの出发点が人間の側にあるなら空しいです。「神がいる」と思えばいいことになり、「いない」と思えばいいことになるからです。そうではなく、信仰は、神が私共に明らかにしてくださったことを「信じる」ことです。エペソ人への手紙2章8節に、**「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」**とあります。信じるか否かは一人ひとりの決断ですが、信じるという決断は自分自身から出たことではなく、神からの賜物なのです。不思議です。自分の決断で信じたと思っただけでも、振り返るなら、神からいただいた信仰によって信じているのです。これが分かると安心します。創造主なる神が三位一体なる神であり、父・子・聖霊なる神が常に私共を救うという御意思をもって働いておられると知るからです。また、その知識が自分自身から出たものではなく、神からの賜物であると知るからです。

こういうわけで、ニカイア信条の「私たちは、信じる」は、創造主なる神が知らせてくださった福音を信じ、確認し、その中に留まる告白です。